

SHINRAN
750th

御遠忌通信

「いただく あわせる 掌のぬくもりを」

第7号



発行日 2018年11月1日
責任者 宮尾 隆造
編集 御遠忌実行委員会
連絡先 長浜教務所

〒526-0059
長浜市元浜町32番4号

TEL 0749-62-0737
FAX 0749-62-0754

参拝部部长 三上 悦示

～今を生きる～

四年前の十月に第一回御遠忌委員会が発足し、昨年十月に発展的に御遠忌実行委員会へと移行し現在に至っております。その間、委員として微力ながら、門徒の立場で参加させていただきました。今回図らずも参拝部長の職を拝命し、もとよりその任ではありませんが、身命をとって務めていきたいと考えております。

ここで参拝部の紹介をさせて頂きま
す。私たちの部は、各組の組長さん、門
徒会長さんの合計二十八名で構成されて
います。各々参拝班・施設班・駐車場班
の三班体制で、御遠忌期間の六日間を運
営していきたいと考えています。両別院
とも本堂及び大広間を開放し、できるだ
け多くの皆様方にお参りをさせて頂きたい
と考えております。しかし、いす席での
参拝方式を計画した事や、緊急時の対応
等々を考慮したため、どうしても人数的
な制約が派生してしまう事となり、参拝者数は五村別院は外縁
を含めて五百三十名、長浜別院は外縁を含め六百十名程度にな
ります。



参拝部チーフ・サブチーフ会議の様子

参拝計画は基本的に、各組毎の指定参拝をベースにします。個人やグループでの一般参拝を見込み、各法座ごとの総入替方式にします。出来るだけ多く参拝をしていただけるよう配慮させていただきます。

農繁期と重なり、何かとお忙しいことと存じますが、一生に一度の機会です、是非ともお友達お誘いの上、この大法要にお参りいただきたいと思います。

何をしに、何のために生まれてきたのか。これからどのような生きていくのか。御遠忌をきっかけに、一度立ち止まって考えてみてはいかがでしょうか。その良い機会をいただきます。

自分が死んだ時、子や孫が『お爺ちゃんありがとう！』と言ってもらえるような『生き方』をしていきたいと考える今日この頃です。

御遠忌テーマの中にもあります『生きる』を皆さん方と再確認していきたいと思えます。

1254年（82歳）

親鸞、『後世物語聞書』を書写。

1255年（83歳）

親鸞、『一念多念分別事』・『自力他力事』を書写。

各組からの
声

「お数珠、持ったか？」

第21組 浄福寺住職 藤本 有

この写真は、私が、五村別院で勤まった宗祖親鸞聖人七百回御遠忌の稚児行列に参加した時のものです。これを見ても御遠忌のことはあまり思い出せないのですが、どうしてか一緒に参りした祖母の姿が浮かんできます。

祖母は、少し不思議な人でした。例えば、よその家に向く時は、一緒に行く私に向かって、口癖のように「お数珠、持ったか？」と声をかけてくるのです。また、目的の家に着き部屋に上がらせてもらうと家の人には目もくれず、まずお内仏に近寄って拜んでから、家の人の方に向き直って挨拶をしました。その家がお寺であれば、一番に本堂へ行って手を合わせ、次にお内仏に向かい、最後に家人に挨拶をしました。この順番はどこへ行っても変わりませんでした。



それから、こんなこともありました。よそ様から何か頂くと、まずお内仏に供えました。とりあえず何でも供えました。私が頂いたお年玉であっても同じで、うっかり封を開けようものなら「供えてきなさい」という言葉が飛んできました。そのうち、学校でもらってきた通信簿も供えるようになりました。その後もよく似たことは続き、私が初めて就職した時は、車で三時間近くかけて帰郷し給料袋をお内仏に供えました。

祖母は、なぜ自分はそのようなことをし、みんなにさせようとしたのかはとうとう言わずじまいでお浄土へ還りました。けれども、祖母がしたようなことを何度も何度も繰り返すうちに、『御本尊が唯一の依りどころである。そして、自分に関わることの全てが賜わりものなのだ』という思いが、私の中に湧き起こってきました。それは正解ではないかもしれませんが、私はそう感じるようになりました。

さて、今にして思えば、前回の御遠忌の思い出は祖母の日々の姿そのものでした。祖母は、言わず語らずのうちに大切なものを残していききました。来年五月には七百五十回御遠忌をお迎えします。これを機縁として何を残していけるのか、私の責任は重大です。

御遠忌＝「無量の寿(いのち)」をいただく＝

第21組 等光寺門徒 片岡 健策

最近、文章を書く機会が減り、五十年に一度の御遠忌お迎えの通信に投稿する機会をえたものの、思いを書き表すのに時間がかかり、思案する間に教区、手次のお寺に思いを寄せる縁をいただいたと感じたところです。

前回の長浜教区での宗祖親鸞聖人七百回御遠忌は一九六二年（昭和三十七年）に厳修され、この時、私は十八歳でありました。当時は、手次のお寺であります等光寺の門徒総代を父が受ける以前のことだったので、わが家は法事や等光寺さんとの会話が主で、教区や組に対しては認識の薄い領域でした。それが、今回、等光寺の役を通して教区事業の役も担う御縁を得て、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌をお迎える機会をいただきました。

一方、我が等光寺でございますが、一八七一年（明治四）年「木之本町石道」にあった無住のお堂を等光寺本堂として迎えるため、多大な人力と尽力によって「湖北高田町」まで移築され現在に至っています。ところが、昨今の社会時世は将来の護持に警鐘をつながし、等光寺本堂は老朽、耐震と併せて縮小化の工事が同時にせまられる課題に直面しています。

等光寺の開基（釋淨信）は一五九八（慶長三）年までさかのぼります。二代目（釋安住）の時に「御本尊」が東本願寺より授与され、三代目（釋玄祐）の時に「等光寺」の寺号をいただきました。

この四百二十年間、絶えることなく受け継がれ、この間どれほどの先達御門徒が「お念仏」を称えて亡くなっていかれたことでしょうか。仏様の話を聴聞し、手を合わせ、念仏申されてきた歴史は、五十年や百年を生きる私たちには、はかり知れない無量の寿（いのち）のつながりがあったと思うのです。

遠い宿縁に頭が下がり、五十年に一度の御遠忌や等光寺本堂は百二十二年に一度の大工事。これらをとおして、はかりしれない無量なる寿（いのち）を「仏縁」といただき、将来につながるお勤めになりたいと願うところでございます。

1255年（83歳）

親鸞、『尊号真像銘文』（略本）を著わす。

恵信、『教行信証』を書写。（専修寺本）

親鸞、『浄土三経往生文類』（略本）を撰述す。

『浜壇保存大会』においでやす!!

浜壇保存会 代表 関谷 光洋

長浜教区は、仏事や祭事を大切にしている文化が古くから守り伝えられている地域です。

特に仏事の中心となる、お仏壇は長浜仏壇（浜壇）という独自の形状のお仏壇が造られ、各家のお内仏として大切にされています。

元々浜壇の原形は、昨年ユネスコ無形文化遺産に登録された長浜曳山祭りの山車の製作者である、藤岡和泉によって造られ、最古の浜壇は一六八〇年に製造されたと記録があり、曳山まつりの山車より古い事が確認されています。

「浜壇保存会」は歴史があり湖北の仏教文化と密接に関わりがある浜壇を、大切に守り未来永劫残すことや、伝統的な工芸品である浜壇の製作に従事している職人を保護・育成するための、お役にたつことを想いとした団体です。

この度の『浜壇保存大会』を開催にあたり、多数様のご参加を心よりお待ちしております。



浜壇ってどんな仏壇？
彦根壇との違いは？

どんな職人さんが、
どうやって造ってるの？



「御遠忌 ごきげん ワークショップ」は御遠忌の趣旨に賛同の上、様々な活動を企画し実施いただく団体を募集しました。応募団体の中から選考の上、一定の助成をするもので、助成対象となる事業は御遠忌の願い「生きる力を伝える」に則した多様な活動を行っていきます。

「御遠忌 ごきげん ワークショップ」を契機として、真宗門徒の皆さんはもとより、宗派を越えて地域の方々との交流を深めてまいります。

【日 時】
二〇一九年四月二十九日（月・祝日） 十時～十六時 ※予定

【場 所】
長浜別院 大通寺 本堂（外陣）

【参加者】

- ・ 地域のお仏壇『浜壇』について関心のある方
- ・ 湖北の仏教文化を大切にしたい方
- ・ 伝統工芸の浜壇の職人について関心のある方

前売入場チケット五百円 定員百名

お問い合わせは代表 関谷携帯：〇九〇・三〇五・二五二一四まで

【内 容】

- ① 浜壇の歴史に詳しい学者さんの文化講座
浜壇の歴史、名工、特徴を解かりやすく説明します
- ② 浜壇職人による実演と講演
実際に浜壇を造っている職人さんのお話や実演も見て頂きます
- ③ 浜壇の組立、解体ショー
浜壇の組立、解体を通してしくみや構造を勉強しましょう
- ④ パネルディスカッション
浜壇と湖北仏教文化を保存について皆さんと一緒に討議します

御遠忌を御縁として 帰敬式を受けましょう！

★日時

二〇一九年五月十九日(日)
九時～十一時(受付八時)
※帰敬式法話がございます。

★会場

長浜別院大通寺 本堂
※全席椅子席にて受式いただけます。

★募集人数

四百名(定員に達ししだい締切ます。)

★申込方法

冥加金を添えてお手次(所属)のお寺へお申込みください。

★冥加金

一万円(二十歳以下五千元)

★申込期間

二〇一八年十月二十二日(月)から
二〇一九年一月三十一日(木)まで

★その他

法名には任職選定と本山選定がございます。詳しくは任職とご相談ください。また、駐車場に限りがありますので、できるだけ公共交通機関や近隣のコインパーキングをご利用ください。また、詳細につきましてはお申し込み後、追ってご連絡いたします。



申込状況

126名
400名
10月25日
現在

詳細パンフレット及び申込み用紙は、お手次のお寺・教務所に
ございます。

お稚児さん大募集！

★日程

二〇一九年五月十九日(日)
十一時集合 十三時発進

★集合・着替え場所

小学生未満「曳山博物館」
小学生以上「大谷会館(大通寺境内)」

★対象

幼児以上(年齢制限はございません)

★募集人数

二百名(定員に達ししだい締切ます。)

★申込方法

冥加金(参加費)を添えてお手次(所属)のお寺、または長浜教務所までお申し込みください。

★冥加金

稚児一人につき一万円
※衣装代、記念品代(写真含む)
弁当(稚児・付添者各一名分)込

★応募期間

二〇一八年十月二十二日(月)から
二〇一九年一月三十一日(木)まで

★その他

二〇一九年四月二十七日(土)大通寺本堂にて保護者事前説明会(稚児衣装の受け渡し及び着付けの講習)を行います。尚、説明会後の参加取りやめに伴う冥加金(参加費)の返金はいたしかねますので、予めご了承ください。また、詳細につきましてはお申し込み後、追ってご連絡いたします。



申込状況

86名
200名
10月25日
現在